



### 3年生進路講演会

本格的に受験モードに突入する3年生を対象に、6月12日(水)、北九州予備校小倉駅校の大山純治先生による進路講演会が行われました。

学校での授業が大切であること、復習の繰り返しが力になること、高い集中力を維持するためには座り方が大切であることなど、多くのことが語られました。

盛りだくさんの内容ながらも、軽妙な語り口に生徒たちは引きつけられ、皆顔を上げて真剣に聞き入っていました。翌日のC-passにも講演会のことが多く書かれていて、3年生の意識の高まりが感じられました。この日学んだ「勉強の型の基本」を大事にして、自分の進路実現に向けて頑張っていってほしいと思います。

### 3年生放課後自習始まる

進路講演会の翌日から、3年生の放課後補習が始まりました。まだ活動を残している部活動生を除いて、全員が各教室で16時50分から18時までの70分間集中して学習に取り組んでいます。

前期中は原則として自習形式です。その日の授業内容を定着させる時間として、宿題に取り組む時間として、あるいは弱点克服のための時間として、それぞれが目標をもってこの時間を活用しています。

学習室延長利用許可者は、20時まで自習を続けます。学校だけで3時間の学習を確保しています。「受験は団体戦」です。放課後の教室で必死に努力している姿や、問題解決のためによく考え、よく質問している姿をお互いに見て高め合っていきましょう。

### 中間考査をどう振り返るか

中間考査が終わりました。今回の結果を受けて、次回への取り組みを真剣に考えてほしいところです。

テスト訂正が課された教科はもちろん、そうでない教科についてももしっかり振り返りましょう。また、不正解だった問題はもちろん、正解した問題についても、正しい手順で正解できていたのかの確認を怠らないようにしましょう。提出のための訂正ではなく、振り返りのための意味ある訂正にしましょう。

### 『百聞は一見に如かず』

### オープンキャンパスに参加しよう

オープンキャンパスは、進学相談や模擬授業を実施したり、資料を配付したりするもので、大学について詳しく学べる機会です。夏休みに開催のピークを迎えます。

それぞれの大学で、趣向を凝らしたオープンキャンパスが準備されています。大学案内を読んだりHPを検索したりすることは全く違う経験になります。実際に大学に足を踏み入れることは、キャンパスやその周辺の町の雰囲気を感じ、学生と交流し、模擬授業を受け、自分の進路志望を固める機会となるからです。

参加を希望する場合は、進路資料室で資料を見たり、各大学のホームページを見たりして調べましょう。学校単位ではなく個人申込みのものが多いため、定員が充足されると参加できないことがあります。進路資料室にはインターネットに接続した生徒用パソコンもあります。利用したいときは気軽に申し出てください。

### 進研模試の受験後

6/29から模擬試験が実施されます。模擬試験後に大切なことは、「復習」です。模擬試験の復習の仕方を、「マナビジョン」掲載記事より紹介します。

#### ■1回目ー受験してすぐ(翌日～3日後)

模試当日にざっと見直して「正答だがあやふやだったところ」「間違えたところ」を洗い出し、模範解答を見ながら解き直します。

#### ■2回目ー受験後1～2週間後

1回目の復習ポイントを中心に、再度見直しをして知識を定着させておきます。

#### ■3回目ー成績表の返却時

合格可能性判定を確認し、志望大の合格ラインまであとどれくらいなのかを客観的に把握しましょう。次に教科・科目別のアドバイスをチェックし、今後の学習計画の参考にしましょう。

大学入試は、中学校までに学んだ知識や計算スキルなどが十分にあることが前提です。そのため、小中高12年間の学習成果が問われる、とも言えます。復習の質を高め、積み上げた12年分の力を十分に発揮できるようにしましょう。

## 1日に必要な英語学習時間とは？

みなさんは、言語間距離 (Linguistic Distance) という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。言語を様々な特徴から判断した類似度のことです。この距離が大きければ大きいほど、つまり言語が似ていないほど、習得するには多くの時間が必要とされます。

右の表を見てみましょう。英語話者は、英語に似たスペイン語を 600 時間で習得できます。対して、英語とは全く異なる日本語を習得するには約 4 倍近くの 2,200 時間が必要であることが分かります。

このことは、日本語話者が英語を習得する際にも同等の時間がかかることを意味しています。私たちが英語をマスターするには、2,200 時間の勉強が必要なのです。

### 〈英語話者が他言語を習得するのに必要な時間数〉

レベル	言語	時間数
Easy	スペイン語, ポルトガル語, オランダ語, スウェーデン語	600 時間
Medium	ロシア語, トルコ語, ギリシャ語, ポーランド語	1,100 時間
Hard	日本語, 中国語, 韓国語, アラビア語	2,200 時間

2,200 時間を高校 3 年間のうちに確保するためには、 $2(\text{時間}) \times 365(\text{日}) \times 3(\text{年間}) = 2,190(\text{時間})$ 、つまり 1 日最低 2 時間は英語の学習に充てなければいけません。平日は学校で 1 日 1 時間英語の授業があると仮定しても、**平日 1 時間、休日 2 時間の英語の自宅学習が必要不可欠**であることが分かります。

57 期生の現状はどうでしょうか。5/13~5/19 日の宅習時間調査の 7 日間で平均 6 時間 8 分しか勉強できていません。平日 1 時間、休日 2 時間で計 9 時間が必要ですが、約 3 時間不足していることとなります。**1日につき現状+26 分の英語学習が必要**という計算になります。

英語は教科であると同時に 1 つの言語です。習得できれば、自分の進路の幅を広げるだけでなく、自分の視野や人間としての幅を広げることができます。(前期中間のコミュ英大問<sup>6</sup>)にも、このことが書かれていましたね。) 予習で自分が疑問に思う箇所を確認できていますか？授業では予習で生まれた疑問点が解消できていますか？復習はその日のうち、その週のうちに済ませて定着に繋げていますか？小テストは計画的に範囲の漏れがないよう勉強できていますか？週末課題は間違えた問題や、偶然正解した問題について理解しようと努めていますか？これらの小さな積み重ねが、2,200 時間の一部となって、あなたの世界を広げてくれることでしょう。

## 大学調べを楽しもう！

先日、初めての進路志望調査がありました。自分の進路について深く考える機会となったでしょうか。皆さんは各教科の力を実践的に使うべく、探究活動に取り組んでいます。せっかく取り組んでいる学問探究を、自分の進路選択に生かさない手はありません。自分が学びたい学問の内容に一番近い研究をしているのはどこの大学か。選択の大きな決め手になるでしょう。

また、学生や卒業生の声もヒントになります。私の在学していた外国語学部には 25 の専攻語がありましたが、「情熱のスペイン、灼熱のアラビア、極寒のロシア」の専攻語の単位取得が難しいことや、「仏のフランス」の教授が寛大であることは入学してから初めて知った情報でした。

では、関係者でないと知り得ない情報はどのように手に入れば良いのでしょうか。『大学図鑑！2020』（ダイヤモンド社）という情報誌には、学生からの声そのまま掲載されています。本校図書館にも来月入荷予定なので、各校の雰囲気ぜひ調べてみてください。また、夏季休業中は多くの大学がオープンキャンパスを開催しています。実際のキャンパスで講義を受けたり、学生や教授に質問したりと、志望校の魅力を自分の肌で感じることで、勉強のモチベーションにも繋がることでしょう。



## +1%の努力を

県総体や文化祭が終わり、ほとんどの部活動で3年生が引退し、2年生が主体となってきました。また、生徒会活動においても新生徒会が始動し、学校全体を56期生のみなさんが牽引していくときがきました。先日行われた中間考査の結果が示すように、授業内容も1年次よりも難しくなり、部活に学校行事に、勉強に…と忙しい毎日を送っているのではないかと思います。そんなみなさんに2つの話を紹介します。

まず『1.01と0.99の法則』の話です。1.01の365乗と0.99の365乗を計算すると、下記のようになります。(数学Ⅱで常用対数を習ったみなさんなら常用対数表を用いて、おおよその値を計算で求めることができるかと思います。是非やってみてください。)

$$1.01^{365} = 37.7834343329$$

$$0.99^{365} = 0.02551796445$$

この2つの数式は、前日よりも1%ずつ努力していくと1年後は大きな成果が得られ、逆に、前日よりも毎日1%ずつ手を抜いていくと1年後には残るものがほとんどないことを表しています。たった2%の差が1年後これだけ大きな差になるというのは、面白くもあり、恐ろしくもありますね。

次に、私の高校時代の友人の話です。特に部活動にも加入していなかった私は高校生の頃、毎朝7時に登校して自習をしていました。1年生のときは遠方から来ているクラスメートを除けば1番早い登校だったのですが、2年生でクラス替えをすると、電車やバスの本数が限られているわけでもないのに私よりも早く学校に来ているクラスメートがいました。何時に来ているのかがとても気になって、私も毎日5分、10分、15分…と登校時間を早めていきました。私は最終的に30分登校時間を早めることになりました。

彼は休日も学校の解錠時間に合わせて登校しており、部活動の前後には集中して自習をしていました。それはお盆や正月の特別な休みの日も変わりませんでした。自由に座席を選べる授業では、いつも一番前の真ん中に座っていました。勉強に力を入れている分、部活動は控えめかというところではなく、全力で取り組んでいて、周囲の信頼も厚く、大所帯の中でキャプテンでした。

なぜ勉強も部活も頑張れるのか、不思議に思った私がそう尋ねると「どうしても学びたい学問がある。そのためにはこの大学に行くしかない。部活も自分でやると決めたからには手を抜くなんて考えられない」と話してくれました。彼の行きたい大学は難関と言われていたこともあり、現役では惜しくも不合格となりました。しかし、その後も彼は妥協することなく+1%の努力を地道に重ね続け、1年後自らの夢を叶えました。

冒頭でも触れましたが、今みなさんはとても忙しいと思います。意識しないと、ただこなしていくだけの毎日になりがちです。「+1%の努力」を続けることで1年後、10年後、さらにその先の自分を変えてみませんか。

～気張いやんせ56期生～ 掃除ができると合格

今年は、県下の数学の先生方とお話できる機会が多い。先日もある高校の先生が「今の生徒は掃除ができない」と嘆いておられた。全く同感である。掃除は汚いところのごみを掃いて除いて綺麗にするから掃除である。目に見えるところだけをさらっと掃いて掃除が終わるわけではない。まず、どこが汚れているかを感じ、そこを綺麗にしようという気持ちが生まれ、それを行動に移すことができ初めて本当に掃除したことになる。これは、皆さんの特に今の時期の学習と同じである。できるところだけさらっとやってそれで終わっている人はいませんか。勉強することは、凡人にとってはきついことである。しかし、今自分が分かっているところに気づき、そこを克服しようという気持ちをもって、実際に工夫して取り組む。これこそ今の時期に必要な能力だと思います。「この子は掃除ができるから、きっと大学に合格する。」と言われたいものですね。

(文責 塘)

### “TV or not TV; that is the question.”

イギリスの劇作家 **Shakespeare** の名前を聞いたことがあるでしょう。彼には4大悲劇と呼ばれる作品「ハムレット」「オセロ」「マクベス」「リア王」があります。

その作品の一つ **Hamlet** の中に “**To be or not to be; that is the question.**” という名セリフがあります。これは、ハムレットが決闘することになったとき、「来たるべきものは必ず来る」という心境で述べたものです。

「生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ」

「このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ」

「生きてとどまるか、消えてなくなるか、それが問題だ」

などと訳されます。

皆さんの中に「生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ」というようなことを考えている人はいないでしょう。

ある英語の本で、次のタイトルのついた文章を見たことがあります。

“**TV or not TV; that is the question.**”

「テレビを見るべきか見ないべきか、それが問題だ」ということです。本来の言い方である **To be** と **TV** をかけています。「生死の問題」よりこちらの方が大問題な人もいるかもしれません。この文章はいろいろな言い方ができます。

テレビをスマホに言い換えれば、“**スマホ or not スマホ; that is the question.**” 「スマホを使うべきか使わないべきか、それが問題だ」となります。

本校に入学してのこれまでの二年間を省みて、どうだったでしょうか。ゆるやかなのんびりとした生活を送ってきましたか？

変化のゆるやかな時代であれば、あえて努力しなくても生きていける。しかし、今は何事も激変していくだけに、のんびりと構えてはられない時代。言い換えれば、十年一日(じゅうねんいちじつ：長い年月の間、変わることなく同じ状態であること)のごとく同じことをやっていたのでは、生き残ることは難しいのです。

君たちに置き換えるなら、この高校生活、状況判断が遅れてしまうとそれだけ周りから遅れてしまう。

いま必要なのは、残された数か月で何をすべきか自分で考え、また周りの動きを敏感に察知し、その時その時の状況に応じて新しい対応をしていかなければならないことです。

例えば、自分の考えている進路先の状況、入試制度の変化、就職状況等を常に頭に入れて行動する。もっと広く見れば、国内情勢、国際情勢等も見する必要があります。

自分が変わらなければ、何も変革はできない。これまで社会において成功していった人は、努力して自己変革を遂げた人たちです。

将来につながる本校のいろいろな教育活動の中で将来の目標に向かって、頑張ってもらいたいと思います。

「生か死か…云々」の仰々しいことはいりません。まずはこれまでの自分を振り返って、“**TV or not TV**” でもいい、自分の周りの誘惑するものを排除して充実した高校生活を送ってもらいたいものです。

それでも “**TV or not TV; that is the question.**” でいきますか？

やっぱり “**スマホ or not スマホ; that is the question.**” でいきますか？

それとも “**To study or not to study; that is the question.**” でいきますか？

残された時間は限られています。「来たるべきものは必ず来る」です。何も迷うことはありません。今何をすべきかよく考えて、やるべきことをやっていきましょう。栄冠は必ず皆さんに輝きます。